

# 令和元年度 横浜市立義務教育学校霧が丘学園小学部「交通バリアフリー教室」の実施報告

## はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。霧が丘学園では、横浜市交通局若葉台営業所と連携し実施しました。
- 霧が丘学園は、JR 横浜線 十日市場駅を最寄駅とし、横浜都心部との接続の良い地域です。
- 駅から離れた霧が丘学園の子どもたちは、駅方面に行く際の乗り物としてバスを身近な乗り物と認識しています。

## 1 交通バリアフリー教室の全体概要

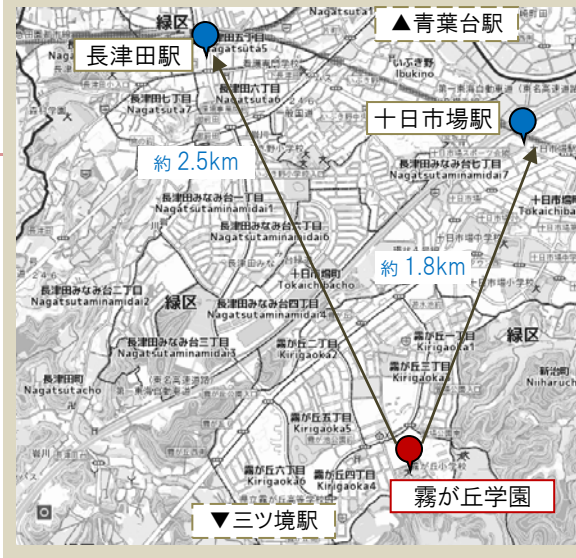
- 交通バリアフリー教室は、①「バスのバリアフリー」に関する座学、②実際のバス車両や車いす等を使った車いす利用体験・介助体験、③バスの乗り方に関する紙芝居・運転席からの死角の体験、④高齢者疑似体験の構成で実施しました。
- バリアフリーを含め、バスに関する様々な“知識”と、実際の“体験”を同時に行うことで、子どもたちのこれからの生活の中で「活かした知識」として根付くことを期待します。

### ■交通バリアフリー教室について

【日時】 令和元年 10月30日(水)  
第1～3校時(9:15～12:10)

【対象】 霧が丘学園 小学部  
5年生 1～3組(82人)

【内容】 ①バスのバリアフリーに関する座学  
②バスを用いた車いす利用体験・介助体験  
③バスの乗り方紙芝居、バスの死角体験  
④高齢者疑似体験



車椅子利用・介助体験

## 2 バスのバリアフリーに関する座学

- 座学では、「もっと知ってほしい バスのこと」と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできた、**バスのバリアフリーの現状**を中心に授業を行いました。
- その中で、バスの利用者が減少していくと「**バスが将来、無くなってしまう**」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- 霧が丘学園は最寄駅まで約2km 離れており、ほとんどの子どもが駅へ行くにはバスを利用している様子でした。中には、塾や習い事などで、バスを1人で利用する子どもも見られました。
- 「**行き先や状況に応じて、バスを上手に使って暮らす**」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

## おわりに

- 今回の交通バリアフリー教室で、車椅子利用・介助体験や高齢者疑似体験によって、**体の不自由な人にとって、移動することの大変さ**を肌で感じた子どもがたくさんいました。
- 子どもたちが今まで以上にバスへの関心をもち、**これからもバスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートするきっかけ**となる「交通バリアフリー教室」となりました。
- 普段は座る事の出来ない運転席に座ってバスの死角について学んだり、バスのルールや乗り方を学んだり、バスの運転手さんと積極的に交流するなど、バリアフリーの事だけでなく、バスの様々なことを学んでいました。

### ■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:もっと知ってほしい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



バスの乗り方について、紙芝居で伝えました。

膝に重りをつけ、さらに目にはゴーグルをかけた状態でバスの乗り降りをおこなっていました。

